

各文構造解説

この冊子の使い方

1つの文について、【英文】→【構造】→【解説】→【語句】の順で並んでいる。

1. 【英文】を音読する。構造と内容が理解できれば、次の【英文】に進んでよい。理解できなければ、
2. 【構造】を音読する。文の構造と、まとめりごとの訳（直訳）を確認する。さらに、必要に応じて、
3. 【解説】を読む。直訳を咀嚼して、要するにどういふことを言っているのか、内容の理解を試みる。
この時点で理解できなければ、「解答・解説」の日本語訳（意識）で内容を確認する。
4. 理解した内容を念頭に、構造と内容が理解できるまで、繰り返し【英文】と【構造】を音読する。
5. 【語句】を音読して、意味を確認する。

最後にもう一度、できれば二度三度、本文英文を、できるだけ速く、頭から意味をとりながら読むこと。

凡例および注意点

凡例：

① = 大問番号 ❶ = 段落番 ❶ = 文番号

【構造】 = 【構造】

主 = 主語 動 = 動詞 目 = 目的語 補・名 = 補語となる名詞

副 = 副詞 関代 = 関係代名詞 過分 = 過去分詞 など

「 」 = 直前部分までの訳（直訳中心）

[] / { } / [[]] など = 注意を要する、句や節などの意味のまとめり

*❶ = 【解説】 とくに注意を要する箇所の指摘および解説

【暗例】 = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする

() = 省略可、あるいは補足・別表現

[] = 直前の語句との入れ換え可

< > = 重要な用語、あるいは構文・イディオム

【語句】 = 【語句】

[|] = 発音。左側が発音記号。右側が発音時の目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント

⇒ = 派生語・反意語 など

注意点：

【構造】と【解説】は、既出表現や構造が平易な英文については、簡略化、あるいは省略することがある

1

1 ① A few years ago, I found myself on a cold, rainy autumn day standing in front of the gates of Auschwitz-Birkenau, the infamous Nazi death camp in Poland where around a million Jews, Poles and others were murdered in gas chambers.

構造 ① **副**A few years ago, 「数年前」 **主**I 「私は」 **動***1 found **目**myself standing 「自分自身が立っていることに気づいた」 **副***2 on a cold, rainy autumn day 「ある寒い雨降りの秋の日に」 **副**in front of the gates of Auschwitz-Birkenau*3, 「アウシュヴィッツ=ビルケナウの門の前に」 **the infamous Nazi death camp in Poland** 「ポーランドにある悪名高きナチの殺人収容所」 **関副***4 where 「そこでは」 **主**around a million Jews, Poles and others 「およそ百万のユダヤ人、ポーランド人、その他の人々が」 **動**were murdered 「殺害された」 **副**in gas chambers], 「ガス室で」

*1：find O *doing/done* 「O が～している / ～されているのに気づく〈知覚表現〉」。 「(気づいたら) O が～している / ～されている」と訳せば自然な日本語になることが多い。**暗例** I woke up to find myself lying on a bench. 「目が覚めたらベンチに横たわっていた。」
*2：場所や時を表す〈前置詞＋名詞〉の句は副詞句と考えるとよい。副詞(句・節)は、なくても文法的な文が成立するので〈文の要素〉に当たらず、置き場所も比較的自由。

*3：固有名詞に説明を加える際、直後のコンマに続けることが多い。このときの説明する名詞句と固有名詞とが同等の関係になるとき、このコンマを〈同格のコンマ〉という。ここでは、Auschwitz-Birkenau and the infamous Nazi death camp 以降が同格である。

*4：関係詞の先行詞が固有名詞の場合、コンマに続けて関係詞を使い〈非制限用法(継続用法)〉とするのが基本。コンマは情報を追加するときに使われることを覚えておくとよい。

語句 Auschwitz-Birkenau [ˌaʊʃwɪts bɜːrkənəʊ | アウシュヴィツバーケナウ] **名** 「アウシュヴィッツ=ビルケナウ (※第二次世界大戦中、ナチスドイツ占領下のポーランドに建てられた2つの強制収容所。第一収容所は当時のドイツ語地名アウシュヴィッツに、第二収容所は同ビルケナウにあった)」、infamous [ɪnfəməs | インファマス] **形** 「悪名高い」、Nazi [ˈnɑːtsi | ナーツィ] **名** 「ナチス (第二次世界大戦以前、ドイツのアドルフ・ヒトラーによって率いられた政党)」、camp **名** 「収容所」、Jew [dʒuː | チュー] **名** 「ユダヤ人」、Pole [pəʊl | ポウ] **名** 「ポーランド人」、murder [ˈmɜːdər | マーダ] **動** 「殺害する」 **名** 「殺人」、chamber [ˈtʃeɪmbər | チェイムバ] **名** 「部屋」

2 The raw, grey weather added to the dark atmosphere.
構造 **主**The raw, grey weather 「ひどく寒い、曇った天気」 **動***1 added 「加わった」 **副**to the dark atmosphere. 「暗い雰囲気」

*1：目的語をとっていないので自動詞の「加わる」。
語句 raw [rɔː | ロー] **形** 「生の、(天気が) じめじめして寒い」、grey/gray [ɡreɪ | グレイ] **形** 「灰色の、(天気が) 曇り空の」、add [æd | アド] **動** 「加わる、加える」、atmosphere [ˌætməsˈfɪər | アトモスフィア] **名** 「雰囲気、大気」

3 For the next few hours I wandered around the sites and exhibits detailing the horrific mass slaughter of people just for being different.

構造 **副**For the next few hours 「次の数時間のあいだ」 **主**I 「私は」 **動**wandered 「ぶらぶら歩いた」 **副**around [the sites and exhibits 「遺跡や展示物のあたりを」 **現分***1 detailing 「詳しく説明している」 **目**the horrific mass slaughter of people 「恐ろしい、人々の大量虐殺を」 **副**just for being different], 「単に違っているという理由で」

*1：直前の名詞句 the sites and exhibits を後ろから修飾する (〈後置修飾〉という)、分詞の形容詞用法。この現在分詞のもとになる detail 「詳しく説明する」は他動詞で、これに続く the horrific ～ people は動詞の目的語。この部分を文に変換すると、The sites and exhibits detail the horrific mass slaughter of people. 「その遺跡や展示物は、恐ろしい、人々の大量虐殺を詳しく説明している。」となる。the sites and exhibits (detailing the horrific mass slaughter of people) 「(恐ろしい、人々の大量虐殺を詳しく説明している) 遺跡や展示物」が名詞句であることを、繰り返し音読して体得すること。

語句 wander [ˈwʌndər | ワンダー] **動** 「ぶらぶら歩き回る」、site [saɪt | サイト] **名** 「場所、遺跡」、exhibit [ɪɡzɪbɪt | イグズイビット] **名** 「展示物、展覧会」、detail [dɪˈteɪl | ディーティウ] **動** 「詳しく説明する」、horrific [hɔːrɪfɪk | ホーリフィック] **形** 「恐ろしい」、mass [mæs | マス] **形** 「大規模な、大量の」、slaughter [ˈslɔːtər | スロークタ] **名** 「大虐殺」

4 It was profoundly depressing.
構造 **主**It 「それは」 **動**was 「～だった」 **副**profoundly 「深く」 **補・形***1 depressing. 「落ち込ませるような」

*1：動詞の分詞形が形容詞として扱われる〈分詞形容詞〉。surprise や amuse などの感情を表す他動詞をもとにするものが多い。ここでは、もとの動詞は他動詞 depress 「(人)を 落ち込ませる」。

語句 profoundly [prəˈfaʊndli | プロファウンドリ] **副** 「深く、大いに」、depressing [dɪˈpreɪsɪŋ | ディプレッシング] **形** 「落ち込ませるような、憂鬱にさせる」

5 Yet I was supposed to be on holiday!
構造 **副**Yet 「しかし」 **主**I 「私は」 **動***1 was supposed to be 「～であることになっていた」 **副**on holiday! 「休暇中で！」

*1：本書では、助動詞や否定語 not, want to do などのよく使われる意味のまとまりを含めて、動詞として区切っている。なお、〈前置詞＋名詞〉は原則、副詞句として考えるとよいが、中には be on holiday 「休暇中である」のように、イディオムとしてとらえた方がわかりやすいものも数多くある。いくつか例文を挙げておく。**暗例** He is at work. 「彼は仕事中了。」、The garage is on fire. 「ガレージが火事だ。」、This building is under construction. 「このビルは工事中だ。」 ちなみに、be 動詞に〈前置詞＋名詞〉の副詞句が続く場合、be 動詞を「存在する」の意味でとらえるとわかりやすくなるだろう。

語句 be supposed to do 「～することになっている」

2 ① Tourism is associated with having fun.
構造 **主**Tourism 「観光は」 **動**is associated *1 with 「関係がある」 **目**having fun. 「楽しむことに」

*1：〈前置詞＋名詞〉は原則、副詞句と考えるのがよいが、この前置詞と動詞との結びつきが強いとき、〈動詞＋前置詞〉を1つの他動詞と考え、続く名詞をその目的語ととらえた方がわかりやすいことがある。ここでは、be associated と前置詞 with がよく結びつので、このまとまりを1つの他動詞としている。

語句 tourism [ˈtuːrɪzəm | トウーリズム] **名** 「観光、観光旅行」、be associated with ～ 「～に関係がある」、have fun 「楽しむ、楽しい時間を過ごす」

2 Indeed, the generally accepted broad definition of tourism is travel for the purposes of pleasure and leisure.

構造 **副**Indeed, 「確かに」 **主***1 the generally accepted broad definition of tourism 「一般的に受け入れられている、観光の広義は」 **動**is **補・名***2 [travel **副**for the purposes of pleasure and leisure]. 「喜びや娯楽を目的とする旅行である」

*1：主語の中心となる名詞は definition 「定義」。the generally accepted 「一般的に受け入れられている〈過去分詞の限定用法〉」、broad 「広い (意味の)」、of tourism 「観光の」は、どれも definition にかかっている。

*2：for the purpose(s) of ～ 「～を目的とする」。ここは名詞 travel を修飾する形容詞句と考えてもよい。

語句 indeed [ɪnˈdiːd | インディード] **副** 「本当に、確かに」、definition [defɪnɪʃən | デフィニション] **名** 「定義」、purpose [ˈpʊːrpsəs | パーパス] **名** 「目的」、pleasure [ˈpleʒər | プレジャ] **名** 「喜び、娯楽」、leisure [ˈliːʒər/leɪʒər | リージャ/レジャ] **名** 「娯楽、レジャー」

3 But many places associated with mass death, human suffering and disasters have become popular tourist sites visited by hundreds of thousands of people.

構造 **接**But 「しかし」 **主***1 [many places 「多くの場所が」 **過分**associated with mass death, human suffering and disasters] 「大量死、人間の苦しみ、そして災害に関連する」 **動**have become 「なっている」 **補・名***2 [popular tourist site 「人気のある観光地に」 **過分**visited by hundreds of thousands of people]. 「数十万の人々に訪れられる」

*1：associated (with ～ disasters) は、名詞 many places を後置修飾する過去分詞の形容詞用法。mass death, human suffering and disasters は、(be) associated with ～の目的語となる3つの名詞の並列。なお、前置詞に続く名詞を〈前置詞の目的語〉という。

*2：*1と同様、visited (by ～ people) は、名詞 popular tourist site を後置修飾する過去分詞の形容詞用法。hundreds of thousands of ～ 「(数千が数百の～) 数十万の～」

語句 associate [əˈsəʊʃieɪt | アソウシエイト] **動** 「～を関連づける」、suffering [ˈsʌfərɪŋ | サファリング] **名** 「苦しみ」⇒ suffer **動** 「苦しむ、被害を受ける」、disaster [dɪˈzæstər | ディザスタ] **名** 「(大)災害」

4 This has come to be known as “dark tourism.”

構造 **主**This 「これは」 **動***1 has come to be known 「知られるようになってきた」 **副**as “dark tourism.” 「『ダークツーリズム』として」

*1：come to do 「(次第に) ～するようになる」。**暗例** How did you come to like playing the guitar? 「どのようにしてギターを弾くことが好きになったのですか?」

語句 be known as ～ 「～として知られている」

5 So what is the attraction of such places that has transformed them into tourist sites that offer commercial opportunities for tourist businesses, turning death and suffering into financial profit?

構造 **副**So 「それでは」 **主**what 「何が」 **動**is 「～だろう

か」 **補・名***1 [the attraction of such places 「こうした場所の魅力」 **関代**that **動**has transformed **目**them **副**{into [[tourist sites 「それらを観光地に変えた」 **関代**that **動**offer **目**commercial opportunities for tourist businesses]]}], 「観光ビジネスに商業的な機会を提供する」 **分構***2 [turning **目**death and suffering **副**into financial profit]? 「死と苦しみを金銭的利益に変えて」

*1：2つの関係代名詞が入れ子状態になっている。最初の関係代名詞 that の先行詞は the attraction (of such places that has transformed them into tourist sites) 「(それらを観光遺跡に変えた、こうした場所の) 魅力」で、them は such places を指す。2番目の関係代名詞 that の先行詞は tourist sites (that offer commercial opportunities) 「(商業的な機会を提供する) 観光地」。

*2：分詞の副詞用法を〈分詞構文〉とも呼ぶ。分詞構文とは、副詞節において、主節と同じ主語と、ときに接続詞を省略し、動詞を現在分詞 (-ing 形) に変えた表現のこと。例えば、He remained quiet, as he didn’t know what to say. 「彼はなんと言っていないかわからなかったので静かにしていた。」という文において、接続詞 as に導かれる節が〈理由〉を表す副詞節。この副詞節の、主節と同じ主語 he と接続詞 as を省略し、動詞部分 didn’t know を現在分詞の not knowing に変えれば、not knowing what to say という分詞構文の形になる。**暗例** He remained quiet, not knowing what to say. 「なんと言っていないかわからず、彼は静かにしていた。」副詞節の動作や状態が主節と〈同時〉のとき、分詞構文の〈付帯状況〉と呼ぶことがある。ここでは、省略すべき主節の主語が疑問代名詞 what 「何が」なのでわかりづらいが、コンマに続く部分として情報が追加され、「何が死と苦しみを金銭的利益に変えているのか」という意味がとればよいだろう。

語句 attraction [əˈtræksjən | アトラクション] **名** 「魅力」⇒ attract [əˈtrækt | アトラクト] **動** 「魅了する」、transform [ˌtrænsfɔːrm | トランスフォーム] **動** 「変形する」、offer [ɔːfər | オファ] **動** 「提供する、提案する」、commercial [kəmɔːrʃl | コマーシャル] **形** 「商業の、民営の」⇒ commercialize [kəmɔːrʃlaɪz | コマーシャライズ] **名** 「商業化する、商品化する」、opportunity [əpɔːtjʊːnəti | アパチューナティ] **名** 「機会、チャンス」、turn O into ～ 「O を～ (の状態) に変える」、financial [ˌfʌnænʃl | フィナンシャル] **形** 「金銭的な」、profit [ˈprɒfɪt | プラフィット] **名** 「利益」

6 Could it be considered unethical to make money in this way?

構造 **動***1 [Could **形主***2 it be considered] 「みなされるかもしれない」 **補・形**unethical 「非倫理的な」 **真主**to make money in this way? 「このような方法でお金を稼ぐことは」

*1：助動詞 could は「もしかしたら～かもしれない」という現在の弱い〈推量 (可能性)〉を表す。consider O (to be) C 「O を C とみなす」。**暗例** It could be considered (to be) unethical to use money to make friends. 「友人を作るためにお金を使うことは非倫理的だとみなされるかもしれない。」

*2：形式主語の it は、主語が長く(重く)なるときにいったん形式的に it 代用し、あとで真主語となる to 不定詞や that 節で主語の内容を説明する形。ここでは、真主語は to make money in this way で、名詞的用法の不定詞。

語句 consider [kənˈsɪdəər | コンスイダ] **動** 「みなす、よく考える」、unethical [ˌʌnɪθɪkəl | アンエティク] **形** 「非倫理的な」